日南市簡易水道事業経営戦略【概要版】

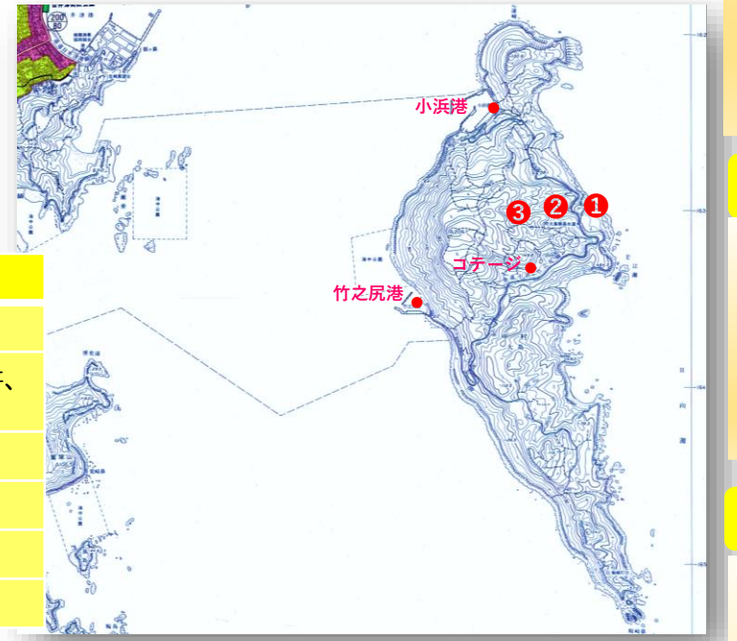
1　はじめに

〇国の地方公営企業健全化の一環として、中・長期的な基本計画である「経営戦略」を策定することが求められています。
〇現在、本市において簡易水道事業の経営について認可の廃止等を含めた議論を行っています。
〇今回策定する経営戦略は、水道課管理としての簡易水道が継続した場合の内容となっています。
〇計画期間は、令和２年度から令和11年度までとします。

2　簡易水道事業の現状

（1）大島簡易水道の概要

項　目	内　容　(令和元年度末時点)
①給水開始	昭和51年1月1日
②施設	水源（湧水）、導水ポンプ井、浄水場、配水池
③管路	4,280m
④計画給水人口	259人
⑤現在給水人口	0人
⑥料金収入	182,013円



（2）水道料金、運営等

〇簡易水道事業も水道事業と同一の水道料金体系です。
〇水道課で水道事業と簡易水道事業を運営しています。
〇一般会計に依存した経営となっており、経営健全化の取組も困難な状況です。

❶大島水源(湧水)

❷大島浄水場

❸配水池

3　将来の事業環境

(1)給水人口の予測
〇今後、交流人口は見込めるものの、居住人口は見込めず、給水人口も0人のままで推移する見込みです。
(2)料金収入の見通し
〇水需要は現在と同レベルで推移する見込みとしており、水道料金収入についても横ばいで推移する見込みです。
(3)施設の見通し
〇給水開始以来、40年以上が経過し、施設の老朽化は進んでいます。
〇取水井は地滑りの影響により消失の恐れがあるため、予備水源の整備を行っています。
〇設備・管路については、現状維持に必要な最低限の更新や修繕により対応します。

4　経営の基本方針

〇大島簡易水道事業は離島であるため水道事業との統合対象外です。
〇居住人口は0人であるが、給水区域内には観光施設等が存在するため、水道水の供給は不可欠です。
〇将来的には、簡易水道事業を廃止し、小規模水道事業等への移管を検討します。
〇以上を踏まえ、簡易水道事業を廃止するまでは、必要最低限の経営を維持します。

5　投資・財政計画

(1)投資について
目標「万が一、既存水源が消失した場合でも、確実に水道水を提供します。」
〇地滑りが発生した場合でも、確実に水道水を供給できるようにするために、予備水源の整備を行います。
(2)財源について
目標「安定した給水を継続するために、財源確保に努めます。」
〇令和３年度に水道料金改定を行う予定であり、料金収入は若干増加しますが、令和４年度以降は、横ばいで推移する見込みです。
〇令和３年度に行う予備水源整備に地方債を活用します。
〇収支の不足する財源は、一般会計からの繰入金で補てんします。

6　経営戦略の事後検証など

〇簡易水道事業の方向性が明確になった段階において、経営戦略の再検証を行います。

令和３年３月策定　日南市